

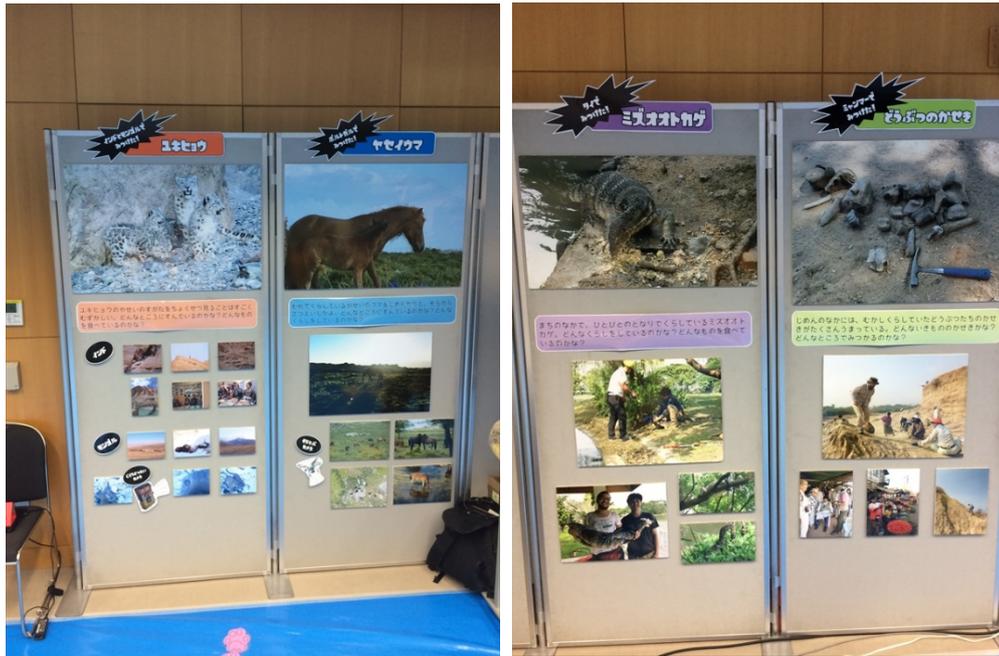
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 19 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	松島 慶

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京国際フォーラム (東京)
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
丸の内キッズジャンボリー2017
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 8 月 14 日 ~ 平成 29 年 8 月 17 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
東京国際フォーラム
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>東京の東京国際フォーラムで実施された丸の内キッズジャンボリー2017 での、ワンダークラブエリアのブース運営に参加した。毎年開催されている丸の内キッズジャンボリーでは、多くの企業が小中学生を対象としたイベントの実施や展示を行っている。PWS では、学生のアウトリーチ活動の実践の場として、ブースの設営を行っている。例年はある程度内容が決まった上で、学生が細かい部分の準備を行っていたが、本年度は野生動物研究センターの学生の榊原香鈴美さんを中心に、4 月ごろから会議を重ね、真っ新たな状態から内容を考えてきていた。そのため、よりアウトリーチの実施の方法について深く考えることができるイベントとなった。私は 6 月ごろから準備に関わり、当日の運営にも全日参加した。なお当日は学生らでワークショップ型のトークも行われたが、私は参加しなかった。</p> <p>当日の会場内はいくつかのエリアに分かれており、それぞれ担当する学生を決めて準備を行ってきた。本年度は、元科学未来館の科学コミュニケーターの大淵希郷先生にご協力いただき、来場した子供達に対し、科学コミュニケーションを行うことを意識しての運営を行った。(事前にそのためのワークショップも実施され、私も参加した。) そのため、解説を行うよりも、会話を行うことを重視しており、参加学生も初めは準備してきたエリアで解説を中心に行っていたが、慣れるにつれてエリアに拘らずに移動し、会話を行うことができるようになっていた。</p> <p>私はユーラシア大陸で調査をしている先生や学生から写真を集め、パネルを作成しての展示を準備した。全て他人の研究に関する写真を使用した展示だったので、解説できることは少なく、むしろ科学コミュニケーションを意識した会話を実践するには最適だった。写真を見ながら、「この動物はどんな生活をしているのだろうか?」といった問いかけをすると、子供達もしっかりと悩みながら返事をしてくれるのが印象的だった。</p> <p>普段研究をしている際には、一般の方々の科学に対する、また動物研究に対する興味のある方を知る機会がほとんど得られない。一方で、研究成果は一般の方々に還元されるべきものである。そのため、大変貴重である今回のような一般の方々に対して解説・会話を行える機会を、今後も大事にしていきたい。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



作成、準備した展示の一部

6. その他 (特記事項など)